

協議会ニュース 140号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2013. 8



Chipakany
2013.7.7 クチナシ

クチナシ (アカネ科) 杉澤 周子 (奥三河支部)

10月14日(月・休) 研修案内=生物分類について=P2
11月30日(土) 新指導員歓迎会 & 協議会 交流の日案内P3
あいちの自然観察会報告 西三河支部 松山 太/奥三河支部 浅井 聡司	...P4
” 尾張支部 大谷 敏和/知多支部 降幡 光宏P5
研修報告:知多・つぐ高原	知多支部 牧野 靖子.....P6
” 干潟の生きもの	東三河支部 天野 保幸.....P7
” 伊那・赤沢自然林	尾張支部 山口 昌宏.....P8
自然観察のヒント	名古屋支部 山田 千宏.....P9
私の活動紹介	名古屋支部 新宅 英夫.....P10
理事会報告P11
行事案内・編集部P12

あいち自然観察会主催・研修会のお知らせ

生物多様性を深めるための研修会（参加費無料）を企画しました。多くの方が参加されることを望みます。この研修は、新自然観察指導員の方も是非参加ください。また自然観察に興味がある方にも呼びかけます。

●スケジュール

日 時 10月14日（月・休）

13:30～（受付開始 13:10）

会 場 名古屋市日本特殊陶業市民会館
第1会議室（90名）

地下鉄・JR・名鉄金山駅徒歩5分

●プログラム

第1部：講演会（13:30～15:10）

講 師 矢部 隆 先生

演 目 「生物分類について」

講師プロフィール

1963年岡山県生まれ。名古屋大学理学部生物学科卒業。東京都立大学大学院理学研究科生物学専攻博士課程単位取得後満期退学。理学博士。現在、愛知学泉大学現代マネジメント学部教授（生態学、地域環境論、生物学を担当）、日本カメ自然誌研究会代表、なごや生物多様性センターのセンター長。

小学4年生の時にカメの魅力に取り付かれ、それ以来ずっとカメと付き合い続けている。カメの生態学、行動学、保全生物学が専攻であるが、カメに関わる考古学や民俗学の研究も始めている。

講演要旨

分類学の第一の役割は生物の種を分類してまとめ、それぞれの種に名前をつけること。分類学がしっかりしていないと、生態学や生物地理学、行動学、遺伝学など他の分野も成立しません。

そこで今回は、種の名前がどのような研究の過程を経てどのようなルールで決まっていくのかという分類学の基礎についてお話しします。また外部形態だけではなく、最近急速に発達しているDNAの塩基配列に注目した分類方法についても紹介します。

第2部：各支部紹介（15:20～16:10） パンフレット紹介・各支部紹介

退 室： 16:25

※有志による懇親会予定 17:30～



▲ 矢部 隆 先生



新指導員歓迎会&協議会 交流の日

日時：11月30日(土) 10:00～15:00

場所：昭和の森（豊田市西中山町猿田 21-1）TEL0565-76-1304

集合場所：交流館前 10:00



●車で直接参加の方：交流館駐車場（NO6駐車場）に駐車
（なるべく乗り合わせておいで下さい）

●名鉄電車利用の方：「梅坪駅」下車、駅前のロータリー9:30集合

※三河線、豊田線のどちらからでも。西三河支部が乗用車で会場まで送迎します。

<<プログラム>>



●昭和の森 自然観察会 10:15～12:00

テーマ「紅葉、木の実の観察」

●昼食 12:15～13:15 バーベキュー場にて



- ・温かい汁物をみんなでつくりましょう。
 - ・おにぎりなどの軽食とおわんなどの器や箸を持参下さい。
 - ・新指導員を歓迎し、大いに交流しましょう。名札を忘れずに！
 - ・食材、什器などは西三河支部が準備します。
 - ・差し入れ歓迎！ 例：ムカゴ、ツブラジイ、スダジイなど。
- ※ただし、アルコール類不可

●新指導員歓迎会&支部交流会 13:30～15:00 交流館附属棟にて

- ・支部紹介等のパネル展示の支部があればご用意下さい。
- ・映像で紹介できるように、パソコン等準備します。

その他：①参加費：無料

②飲酒は差し控えます。

③準備の都合上、各支部単位で参加者名、人数、交通手段（乗用車、電車）等を報告していただきます。（改めて「協議会ニュース」次号No.141にて通知します。）

問合せ：西三河支部 三田（0566-75-4059）

深見（0565-28-4958）

<雨天の場合>

雨天の場合は観察会および汁物などは中止し、午前中だけの下記プログラムになります。



【雨天時のプログラム】

10:15～12:00

新指導員&支部交流会

<参考>



■昭和の森は昭和天皇在位 50 周年を記念して整備された施設です。1981 年（昭和 56 年）4 月に開園。野外レクリエーションや自然観察、森林浴等が楽しめます。また、森林浴の森 100 選に選ばれています。

レポート あいちの自然 = 田んぼの生きもの =

西三河支部 松山 太

日時：4月29日 場所：西尾いきものふれあいの里

参加者：20名

里山の春はコナラの若葉で銀白色に輝いています。「この色は展開後数日のみの絹毛のせいですよ」と葉を手に取りじっくりWATCH、「きれいだな〜」。するとあちこちイモムシだらけ。ハンドブックを取り出し、皆で必死に絵合わせ。なんだかんだの末、ホソバフユシャクとマエジロアツバで決着。ついでにコナ



▲クロバイ(花)

ラの花と隣のアラカシの花を見比べ、雌花の元が秋に実るドングリのパンツで、その模様が落葉性のコナラと常緑性のアラカシで違うのが判るかな？ウロコ模様とシマシマ模様。

森の中で真白に超目立つ木があちこち、プロミナーで見るとクロバイの花が満開で、歓声があがります。西尾市の温暖な気候ならではの光景で、クロバイとカゴノキが多いのが自慢。田んぼの畦に入ると、期待どおりの素晴らしいお花畑。ゲンゲ、ムササギゴケ、コオロギ、ミミズ、ハコガサ等々、しゃがんでじっくり見ると本当に綺麗な花達です。

ゲコゲコゲコとカエルの声、これなに一の質問に、山崎邦子会員の必殺小道具登場。下敷きのカエルの絵を太いペンでなぞると、グーゲーブークーと色んな鳴き声が聞こえ皆で大笑い。歩き進むとピョンピョン出て来るのを次々捕まえ、1匹ずつ顔や腹をよく見て、ヌマダ、アマダ、シュレーゲルだ、と大喜びです。チョウやトンボもいっぱい飛んでました。今日の締めは、コバノガマズミの清楚な香りを胸いっぱい吸い込んでフーおしまい。

レポート あいちの自然 = 棚田にすむ生きものたち =

奥三河支部 浅井 聡司

日時：6月8日 天気：晴れ 場所：四谷千枚田(新城市)

参加者：3名 指導員：15名

新城市四谷の棚田は、2010年に開催された生物多様性条約締結国会議COP10のパンフレットの表紙となり、広く国内外にアピールされた。鞍掛山の中腹よりわき出す豊富な湧水が田んぼ一面に湛えられている。棚田の保存に関わる小山舜二会員から、棚田保存の歴史や難しさ、生物多様性の里山としての存在価値、生き物のことなど実に幅広いお話を伺った。石垣に使われた石はすべて地元の自然石（主にデイサイトと松脂岩）であり、積み方に大変な技術が使われているとの説明も受けた。

棚田は冷たい水を温めねばならず、収穫量が少ない上に手間がかかり、過去には山崩れなどの天災にも見舞われた。ゆえにこの美しい棚田を守り続けるには大変な労力がかかり、棚田を守り続けた人たちに感謝せずにはいられない。この棚田では農薬の使用は極力控えられ、食物連鎖のバランスを保つことにより害虫の発生を抑えている。田んぼの中のをのぞいてみると多数のミジンコが泳いでおり、清流が流れ込む冷たいところには、冷水を好むヤマアカガエルのオタマジャクシが群れていた。またアカハライモリやヘビ類も見られた。サワガニも多く目にした。その他、ヤマアカガエル、トノサマガエル、アマガエル、タニシ、マドジョウ、カワヨシノボリ、カワムツ、ミジンコ、カワトンボなどが観察できた。

日時：6月8日 天気：晴れ 場所：瀬戸市立掛川小学校

参加者：8名 指導員：15名

瀬戸市立掛川小学校の田んぼは、私が作った田んぼです。現在は地元の人たちによって管理されています。田んぼの水は沢から長いパイプで引いています。周りに田んぼはなく森の中の孤立した田んぼです。水を入れて1ヶ月にもならないのに、もうヤゴやオタマジャクシがいました。田んぼの中に植物はあまり見られませんでした、小さな生き物がたくさんいました。

田んぼで見られた生き物

昆虫：クロスジギンヤンマ、シオカラトンボ、ホソミイトトンボ、種名の分からないヤゴ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、マツモムシ、ヒメイトアメンボ、アメンボ sp、ユスリカ sp (幼虫)、チビゲンゴロウ幼虫、コカゲロウの仲間、ボウフラ、



▲ 観察会の様子

両生類：トノサマガエル (成体、オタマジャクシ)、アマガエル (オタマジャクシ)

植物：ウキクサ、シャジクモ

その他動物：モノアラガイ、サワガニ、ミジンコ、カイエビ

日時：6月23日 天気：晴 場所：常滑市大谷

参加者：一般2名 指導員：7名

今年の愛知県自然観察指導員連絡協議会共通テーマの水田や畑の自然観察として計画しました。例年、(株) M-easy 常滑事業部の畑を利用させていただき、実施してきました。今年は水田の観察もテーマになっていましたので減農薬で米の栽培をしている兼松さんをお願いして水田の観察もしました。

最初に、(株) M-easy 常滑事業部が無農薬有機栽培をしている野菜畑で観察しました。栽培している野菜の中に雑草がたくさん茂り、除草剤等が使用されていないと感じました。そのためか、たくさんの種類の虫が見られました。

畑の虫の観察に続き、兼松さんの水田に向かいました。兼松さんの水田は谷戸地にあり、知多地方伝統である池の水を利用して稲を栽培していて、愛知用水を利用していません。そのため最近、渇水で池が干上がり、田んぼに水が落とせず、次に水田が干上がり、水田の生き物が死滅しようです。それでも一部残って水たまりで生き延びた生き物があり、当日は楽しく観察することができました。また、周りの傾斜地や水田の土手を見ると外来生物が少ないと感じました。

北設楽郡津具を尋ねて

知多支部 牧野 靖子

【日 時】5月25日～26日

【場 所】津具高原

【天 気】晴れ

【参加者】7名

毎年、年2回（春と秋）の開催が恒例となっている知多支部の研修旅行。今回は、支部研修会として開催する。

<1日目>

★四谷千枚田

棚田の保存に携わる小山舜二会員より、棚田保存の歴史や難しさ、生物多様性の里山としての存在価値、生き物のことなど実に幅広くお話を伺った。

収穫量が少ないうえに手間がかかり、過去には山崩れなどの天災にも見舞われながらも、この美しい棚田を守り続けた人々の大変な労力に、感謝せずにはいられない。

田植えを終えたばかりの水田の中にはさまざまな生き物の姿を見ることができた。数種類のカエルやオタマジャクシ、アカハライモリがいたのは嬉しい。その他、サワガニやマドジョウ、カワヨシノボリ、カワムツ、カワトンボなど。



▲四谷千枚田と段戸山裏谷

★アテビ平「小鳥の森」

ウグイス、カッコウ、ホトトギス、ミソサザイ等の美しいさえずりが聞こえてくる。植物は、ギンリョウソウの株やウスギヨウラク、ヒメカンアオイの花を見ることができた。その他、レアものとしては、ツキノワクマの爪痕。※その他、川宇連のハナノキ（国天）、茶臼山カエル館などにも立ち寄る

<2日目>

★津具鉾山

武田信玄が金を採掘したことで知られる津具鉾山。金とおぼしき輝くものは、ほとんど黄鉄鉾であった。

★段戸山裏谷高原原生林

愛知県内最大級の原生林でブナ、モミ、ツガ、ブナ、ミズナラ等の巨木が存在する見事な森である。川には魚（たぶんイワナ）がおり、捕らえて観察。ニワハンミョウがたくさんいた。キノコは、サルノコシカケ科のみごとなキノコ群、傘の立派なオレンジのキノコ群などを観察する。



▲ミズナラの巨木

干潟は生き物の宝庫？ ―アサリ稚貝の謎―

東三河支部 天野 保幸

日 時：6月22日（土）9：00～12：00

場 所：豊橋市六条潟

参加者：東三河支部会員 16 名、

他支部より 4 名、

会員外 3 名

合計 23 名

六条潟の歴史とアサリの稚貝

六条潟は六つの河川が流れ込んで作られた干潟です。昔からの干拓と海の環境の変化から六条潟の漁業はその形態を変化させてきました。

豊かな海だったころはハマグリ的好漁場であり、海苔の養殖場でした。環境汚染が進み、*苦潮が発生すると生き物は減少し、季節による変化が大きくなりました。

夏から秋の終わりごろまでは苦潮などで生物は減少し、稚貝の捕食者もいなくなります。翌春には潮流などによって運ばれたアサリの幼生が定着し、稚貝が大量に発生するようになります。

これが、六条潟が今、注目されている要因の一つです。（以上解説者の言より）

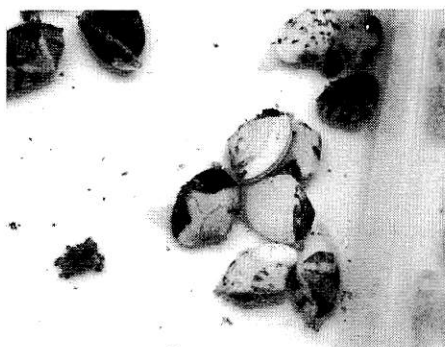
*苦潮＝青潮とも呼ばれる。海底近くで堆積した有機物が分解されるときに海水の酸素が消費され、酸素が極端に少なくなった水が岸近くにまで押し寄せてくる現象。

でも、生き物はいっぱい？

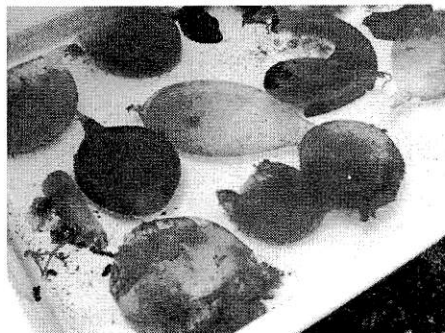
一昔前に比べ、今は水質もややよくなりました。夏の苦潮は相変わらず発生しますが干潟付近のヘドロは少なく、酸素の多い海水に満たされれば生き物たちはすぐに戻ってくるようになったからです。でも、夏から秋にかけて一度死滅した生物相は他の干潟に比べると単純なものです。

しかし、春の干潟には生き物が多くみられました。特にアサリの稚貝は非常に多く、よく見ると干潟を覆い尽くすほどの密度で発生しています。大きさは2mmほどのものから1cm弱のものまで採集してバットの中に入れておくとまるで運動会をしているように動き回っていました。これには参加者一同びっくりしました。

六条潟は捕食者が少ない⇒稚貝大発生
マメコブシガニもたくさんいたよ！



▲ 動き回っていたアサリの稚



▲ 得体のしれない物体＝
ツバサゴカイの卵塊（卵包）

自然も人もじっくり WATCHING

尾張支部 山口 昌宏

伊那市「トンボの楽園」

6月の最終土曜日と日曜日。恒例の一泊研修を実施した。参加者は齋竹善行支部長など尾張支部会員のほかに名古屋支部から2名の参加があり総勢8名。2台の車に分乗し賑やかに出発した。恵那山トンネルの工事で少々渋滞したが予定通り伊那市内で昼食となった。伊那名物のローメンや、野球ボールのようなコロッケに挑戦した。トンボの楽園では地元の大村指導員らの案内。他に4か所も場所を変えて丁寧な説明を受けた。当夜の宿舎は名古屋市民おんたけ休暇村。夕食後は、ビールやウイスキーで皆さまいい雰囲気にて。



▲トンボの楽園（伊那市）にて



▲アオハダトンボ（♂）伊那市

写真提供：山田 博一会員

王滝村「赤沢自然休養林」

翌30日、天気は曇り。御嶽山7合目にある田の原自然公園で植物観察。その後、赤沢自然休養林へと向かう。ここは秀吉の時代から木材の供給地となり、江戸時代には伐採禁止令が出るなど優良材を産出してきたところ。1969年、全国初の自然休養林として一般に公開された。さすがに樹齢300年の森は人間を圧倒する。いくつかの散策コースがあるが、駒鳥コース（所要時間70分）を歩く。高木層は木曽五木だが、このうち日陰に強いアスナロが優勢になってきているとか。このコースには昭和60年代採し伊勢神宮に献上した御神木伐採跡株を見学することが出来る。毎月の観察会ではお目にかからない植物や昆虫を見ると、どうしても時間の経つのを忘れてしまう。

大桑村「阿寺溪谷」

午後2時半ごろ次の目的地阿寺溪谷へ。一旦19号線へ出て野尻から溪谷へ入る。赤沢とは違って谷が深く山腹は急峻だ。溪谷沿いの道路を15分ほど行ったところに六段の滝を巡る周回コースがあり、今回はここを歩く。溪谷沿いの両岸は植物相も多く、写真やメモをとったりして皆さま大忙しでした。

二日にわたる研修会で走行距離450キロ余。安全運転に徹し貢献してくれた齋竹支部長と木村眞一郎会員に心から感謝です。ありがとうございました。



自然観察のヒント

ゴール!!

【ゴールって？】

サッカーみたいに…、ではなく、綴りが違います。サッカーは、“GOAL”、でここていうのは“GALL”です。植物に出来る異常隆起一般を、こう呼びます。

観察会で「虫こぶ」と呼んでいるものですが、虫以外にもウイルスや菌類、線虫類によって出来るものもあります。

これら、GALLのうち、昆虫類によって形成されるものを「虫瘻(ちゅうえい)」、つまり「虫こぶ」と呼びます。

ちなみに、オトシブミの揺りかごのようなものは植物体の変形を伴いますが、虫こぶとはいいません。

昆虫類の活動によって、植物体の一部の細胞が異常に増殖したり、誇大したり、組織分化の過程が狂ったりしたものをこう呼んでいます。植物の生長反応を伴うものという定義です。

また、食餌活動によるものも含みません。簡単な見分けとしては、虫こぶの形成者がいるかどうかです。

【作ったのは…？】

虫こぶを作る昆虫は数多くいます。一番多いのはタマバエと呼ばれる体長1～5mm程度のハエの仲間です。

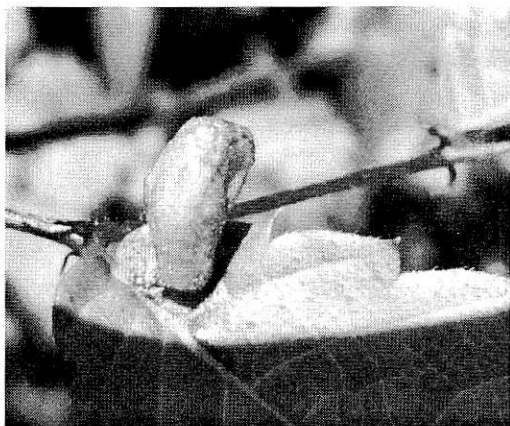
虫こぶといわれるものの3分の1以上、約半分はこの仲間のものです。

その他には、アブラムシの仲間やキジラミの仲間、ガの仲間がいます。

このように説明すると小さい虫ばかりだと思ってしまうますが、クズの茎に幼虫が潜んで、茎を肥大化させるオジロアシナガゾウムシは、体長7～8mmはあります。

名古屋支部 山田 千宏

これも広い意味での虫こぶの形成者です。各昆虫ごとに形成する植物だけでなく、その植物のどこに形成するかまで決まっています。



写真のものはケヤキヒトスジワタムシによるものですが、ケヤキには、これ以外にも少なくとも2種以上の虫こぶが知られていて、それぞれに形が違います。

また、虫こぶを形成する昆虫に対しての寄生昆虫も知られ、米粒どころか、栗粒大での生存競争が繰り広げられているのが虫こぶの世界なのです。

【新種発見！】

現在、虫こぶの種類としては、日本だけで1400種あるといわれています。

五倍子(ヌルデ)のように、タンニンを生供給源として古くから知られているものがある一方で、全くわかっていないものが数多くあります。

がんばってみる…前に、目の養生を…。

私の活動紹介



名古屋支部 新宅 英夫

1. 指導員登録の動機

自然観察指導員になったのは何故？と問われると返答に困ります。海上の森の観察会に参加していた名古屋支部の指導員N君から、「今年愛知県で自然観察指導員の講習会があるけど、受けてみやー。」とハガキを渡され、どんなものか「観察」しにいてみようかと応募したのがことの始まりだったのです。

2. 活動の経緯

1988年に愛知万博誘致の方針が発表され、中部空港・第二東名・リニア新幹線と万博による三点セットプラスワンの巨大開発が動き出し、海上の森が万博のメイン会場となる計画にさまざまな人々が反対の意思表示をいたしました。1998年頃に以前より個人的つきあいのあった名古屋支部の故朱雀英八郎指導員より「手伝いにきてくれんかね。」との声がかかり、海上の森の観察会に参加するようになりました。当時の万博反対・批判の市民グループは、より多くの人々に海上の森を見せることを通じて多くの自然保護賛同者を育て、万博の賛否を問う県民投票の請求署名を128,105人も集め、私もいつしかそのうねりの中にまじっていたのです。その後万博は実施されたものの、海上の森の多くは保護され残ったのですが、反対運動が終わったので観察会を解散するとの声が出ました。名古屋支部のN君、尾張支部のY君とともに「反対運動のための観察会」でなく、地道に自然保護の活動の一つとして、これからも続けていこうということで現在まで、毎月第三日曜日に「海上の森を歩く会」を実施してきました。



▲海上の森を歩く会有志の記念写真

観察会の実施にあたっては、自主的参加・相互の助け合い・自分たちでコースを考え、参加者相互で教えあう観察会を主題としています。「観て、知って、考える」ことと、海上の森に愛着を持つことがこの森を保護する原点であろうし、さまざまな考え方の参加者が共通の認識を持つためには、肩肘張らない交流の場としての観察会があってもよいのではとの気持ちで続けてきました。

3. とっておきの観察道具

観察道具で一番は、やはりデジタルカメラでしょう。事前に目についたものを撮影し名前やその性質、環境などを調べるもよし、10年前のこの植物はいつごろどんな状態だったのかを比較するもよし、使い方は多岐にわたります。

4. 夢の観察会

私の理想の観察会は、指導員の不要な観察会でしょう。指導員は黒子となり、参加者の自主性に任せることができれば、次の活動場所を求めていけます。自然観察指導員は名古屋支部の故朱雀英八郎指導員がそうであったように、種蒔く人なのですから。

平成 25 年度 第 2 回理事会

日 時：5 月 5 日(日) 13:30～16:30

場 所：名古屋市音楽プラザ

出席者：大谷、降幡、星野、浅井、石原、近藤、辻、吉田、布目、永田、森田、石川、
瀧崎、齋竹、南川、三田、影山（代理）、河江

議案 1 第15回日本カメ会議 名古屋開催 2013(平成25)年8月31日(土)～9月1日(日)の後援依頼
愛知学泉大学教授・なごや生物多様センター長 矢部隆さんより依頼あり。

理事会として後援をすることを決定。協議会ニュース8月号にチラシ折込予定。

議案 2 自然観察指導員講習会 in 愛知の件

日時：9月7日(土)～8日(日) 場所：犬山国際ユースホテル

〒484-0091 犬山市大字継鹿尾字氷室162-1 TEL:0568-61-1111 FAX:0568-61-2770

1日目3名、2日目10名、各支部2名の講師依頼。大谷会長に連絡のこと。

宿泊代は実費負担(交渉の余地あり。後日連絡)交通費は、協議会会計より支払う。

議題 3 愛知県調査センターからの協力依頼

県民を対象とした生物調査をHP等で呼びかけたい。あいち自然観察会に協力をしてほしい。GPS機能付きのスマートフォンやデジタルカメラで撮影された写真を以下アドレスまで
おく。容量は2メガまで。 E-mail:shizen-chousa@pref.aichi.lg.jp

理事会として了承。詳しくはHP参照のこと。

議題 4 タケの分布調査

竹調査状況の確認。県内の竹林の分布調査(モウソウチク、マダケ、ハチク)。

完成年度の3日目。調べた支部は、調査担当 瀧崎理事まで連絡のこと。

議題 5 2013(平成25)研修会開催の提案

日時：2013年10月14日(月・祝)13:00～16:30

場所：金山・日本特殊陶業市民会館会議室(90人部屋)

テーマ：生物分類のお話 講演者：矢部隆さん。(愛知学泉大学教授)

他にパンフレット紹介、各支部紹介など。研修会チラシ作成承認される。

理事会として提案を受け入れる。協議会ニュース8月号に研修会チラシ折込予定。

議題 6 名古屋市立新郊中学校から7月4日(木)稲武合宿時の自然観察依頼

協議会として受け、尾張支部で指導員を募って対応する。

10月3日(木)名古屋市立沢上中学校 降幡知多支部が受諾。

議題 7 田んぼの観察会の記録事項

4月27日(水)西尾いきものふれあい里で行われた観察会の記録について浅井事務局が報告。今後この報告をもとにフォーマットを事務局が作ることを確認。

議案 8 各担当から

(1)会計 : 会計の精算

(2)編集 : 協議会ニュース8月初旬発行、チラシ折込の件の確認

(3)名簿管理 : 各支部など会員の確認

(4)HP : あいちの観察会・支部観察会の報告必ず送付のこと。

(5)保険 : 平成24年度県協議会保険対象観察会 集計結果報告

(6)広報 : 協議会パンフレット配布先の確認。3,105部送付。残1,695部

議案 9 各支部から その他

＜＜ 行 事 案 内 ＞＞



■平成 25 年度 あいちの自然観察会（平成 25 年 7 月 10 日現在の情報）

日 時	内 容	実 施 場 所	集 合 場 所	担 当
11/10（日） 9:30 ～12:00	秋の豊橋公園と 沖野の田んぼ 観察	豊橋公園 および沖野地区	豊橋市美術博 物館（豊橋公 園内）前	東三河

■平成 25 年度 支部研修会（平成 25 年 7 月 10 日現在情報）

日 時	内 容	実 施 場 所	集 合 場 所	担 当
8/31（土） 注①	伊吹山の生きもの 高山植物、昆虫な ど	伊吹山 （滋賀県米原市）	JR 名古屋駅 JR ハイウェイバ スのりば 9:00 発	尾張支部 齋竹 TEL/FAX 0587-37-7616
10/27（日） 9:30 ～15:00	鳳来寺山穴場を 探検しよう 巨木、不動滝など	鳳来寺山高徳林道	鳳来寺参道 入口 合鏡駐車場	奥三河支部

■注①

8/31（土）尾張支部主催研修メール申込：齋竹（yoshiyuki.saitake@nifty.ne.jp）
バス予約の都合上、8/17 期限厳守でお申込ください。

編 集 部 か ら

- 今年も暑い夏がやってきました。この時期ならではの夜の観察を実施する地域があります。夜の昆虫、夜咲く花などを期間や時間を限定したテーマは、昼間の暑さを避けた面白い企画となっています。
- 本年は、2年に一度の愛知県内開催される自然観察指導員講習会の年です。みなさんの周囲、観察会の常連さんで自然観察に関心の高い人に、是非受講を勧めましょう。私たちの活動の輪を広げましょう。
- 編集スタッフ募集！「協議会ニュース」を私たちと一緒に作成しませんか。ワードで各ページを作成するメンバーを募っています。ワードの基本と画像処理ができれば OK です。編集作業が可能な方は、下記編集部 近藤までご連絡ください。

編 集 ス タ ッ プ

岡田 雅子 久米未祐
近藤 記巳子 新山 雅一
山口 健

発 送 ス タ ッ プ

名古屋支部有志

「協議会ニュース」編集部

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2 - 6 - 17

桜本町 C H 101

近藤 記巳子

TEL / FAX 052-822-7460

E-mail : konkimi@nifty.com

■愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局

〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7 - 3 石原 則義

TEL / FAX 052-711-3087 E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp

■ Web Page : <http://naichi.net/>

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）機関誌「協議会ニュース」140号発行